

# 女性とジェンダーの歴史

## 第5号

### 2018.3

- 特集 植民地戦争におけるセクシュアリティとジェンダー — 帝国だった過去を問い直す —**
- 問題提起 軍事化とジェンダー  
— Brexitと「帝国だった過去」の狭間で — 井野瀬久美恵 (1)
- 「脱帝国のフェミニズム」に向けて  
— マウマウ戦争と植民地支配のレガシー — 富永智津子 (11)
- 20世紀初期南部アフリカ社会の人種化とジェンダー  
— 南ア戦争期の 'black peril' と 'white peril' — 永原 陽子 (19)
- 討論 (32)
- リレー討論「いま、女性史に問われているもの」第7回  
「フェミニスト史」に立ち戻る 竹内 敬子 (44)
- 女性史をめぐる話題**  
映画『未来を花束にして』と実在のサフラジェットたち 佐藤 繭香 (48)
- 女性史・ジェンダー史の古典を読む 第1回**  
水田珠枝著『女性解放思想の歩み』を読む 藤川 沙海 (52)
- 第28回研究会の記録**  
イングランドの家政書と明治期の翻訳本におけるジェンダー規範  
— 『家内心得草』の比較検討を中心に — 山田 千聡 (56)
- 「強制」治療の網の目  
— 接触伝染病予防法廃止後のロンドンロック病院を事例に — 田村 俊行 (57)
- 世紀転換期の教育・階級・ジェンダーを公立教員養成に見る  
— 見習い教員センター (Pupil Teacher Centre; PTC) と  
精神分析家エラ・シャープを巡って — 松本由起子 (58)
- ヴァージニア・ウルフと嗅覚的表象  
— 身体と空間の想像的構築をめぐって — 伊藤 裕子 (59)
- 書評**  
ソニア・O・ローズ著 (長谷川貴彦・兼子歩訳) 『ジェンダー史とは何か』 奥田 伸子 (61)
- マーゴ・デメッロ著 (田中洋美監訳) 『ボディ・スタディーズ  
— 性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』 水谷 智 (63)
- バーバラ・エーレンライク、ディアドリー・イングリッシュ著 (長瀬久子訳)  
『魔女・産婆・看護婦 — 女性医療家の歴史 (増補改訂版)』 高林 陽展 (65)
- 水井万里子・伏見岳志・太田淳・松井洋子・杉浦未樹編  
『女性から描く世界史 — 17~20世紀への新しいアプローチ』 弓削 尚子 (68)
- 川津雅江著『サッポータちの十八世紀  
— 近代イギリスにおける女性・ジェンダー・セクシュアリティ』 小川 公代 (70)
- 伊東剛史・後藤はる美編『痛みと感情のイギリス史』 山口みどり (72)
- 武田悠一・武田美保子編著  
『増殖するフランケンシュタイン — 批評とアダプテーション』 光永 雅明 (74)
- 田中孝信・要田圭治・原田範行編著『セクシュアリティとヴィクトリア朝文化』 川津 雅江 (76)
- 佐藤繭香著『イギリス女性参政権運動とプロパガンダ  
— エドワード朝の視覚的表象と女性像』 河村 貞枝 (78)
- 荒木映子著  
『ナイチンゲールの末裔たち — <看護>から読みなおす第一次世界大戦』 松本 朗 (80)
- レギーナ・ミュールホイザー著 (姫岡とし子監訳)  
『戦場の性 — 独ソ戦下のドイツ兵と女性たち』 林田 敏子 (82)
- 松原宏之著  
『虫喰う近代 — 一九一〇年代社会衛生運動とアメリカの政治文化』 永島 剛 (85)
- 佐久間亜紀著『アメリカ教師教育史 — 教職の女性化と専門職化の相克』 野々村淑子 (88)
- 三神和子編著『オーストラリア・ニュージーランド文学論集』 難波江仁美 (90)

イギリス女性史研究会